

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：37402  
 研究種目：基盤研究(B) (一般)  
 研究期間：2014～2016  
 課題番号：26284068  
 研究課題名(和文) 次世代ディケンズ・レキシコン・デジタルの開発とそれに基づく後期近代英語研究  
  
 研究課題名(英文) The Production of Dickens Lexicon Digital with a Multifunctional Information Retrieval System and its Practical Use for the Study of Late Modern English  
  
 研究代表者  
 堀 正広 (Hori, Masahiro)  
  
 熊本学園大学・外国語学部・教授  
  
 研究者番号：20238778  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の出発点は、1953年に英語研究において最初の学士院賞を受賞された、山本忠雄博士(1904-91)が構想した、著書Growth and System of the Language of Dickens: An Introduction to A Dickens Lexiconである。このDickens Lexiconのデータベースを基に多機能搭載型電子版ディケンズレキシコンを作成することが本研究の目的である。Web上での公開を目指して、カード項目の見出し語の表記の統一はほぼ終了した。18世紀と19世紀の英国小説の電子テキスト化は終了したが、いくつか不具合が見つかり現在修復中である。

研究成果の概要(英文)： The purpose of our project is to create The Dickens Lexicon Digital based on approximately 60,000 index cards which the late Dr. Tadao Yamamoto (1904-91) compiled. He first conceived a plan for the compilation of the Dickens Lexicon, and published Growth and System of the Language of Dickens: An Introduction to A Dickens Lexicon in 1950, as an introduction to the Dickens Lexicon. In 1953 he was awarded the Japan Academy Prize for this work. Our Dickens Lexicon is expected to be released as The Dickens Lexicon Digital, an Internet website with a multifunctional search engine, including the e-texts of 18th and 19th century fiction. It is planned to be available on the web in the near future.

研究分野：英語学・文体論・コーパス言語学

キーワード：ディケンズ 多機能搭載型レキシコン 電子テキスト データベース インターネットに無料公開 1  
 8世紀、19世紀英国小説 コンコーダンス 多様な検索機能

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の出発点は、山本忠雄博士(1904-91)(元広島大学・神戸大学教授)の著書 *Growth and System of the Language of Dickens: An Introduction to A Dickens Lexicon* である。この著書は、1946年東京大学より文学博士の学位を授与され、1950年に出版された。1953年には英語研究において最初の学士院賞を受賞された。2003年第3版の改訂版(溪水社)が刊行された。

山本博士は *Dickens Lexicon* の完成を目指して、3度共同研究を試みられた。第1回目は、1948年度の文部省科学研究費補助金を基に、広島文理科大学の教え子との間で行われた。メンバーは、榊井迪夫、東田千秋、黒瀬保、吉田弘重、田辺昌美であった。第2回目は、1952年度の文部省科学研究費補助金を基に、メンバーは、榊井迪夫、黒瀬保、東田千秋、神津東雄、吉田安雄、五島忠久、松本淳、松浪有、廣岡英雄、河井迪男であった。第3回目は、メンバーを限定し東田千秋、吉田安雄、松本淳、河原重清で行われ、その成果として、山本忠雄編著『ディケンズの文体』(南雲堂:1960)にまとめられた。しかし、いずれの共同研究も山本博士が意図したような結果は得られなかった。それ以降は、山本博士独力で用例の収集に当たったが、1991年に他界された。

1997年に山本博士の自宅から約6万枚の *Dickens Lexicon* のためのカードが発見された。「自分の代で完成できなくとも必ず次世代のものが完成してくれる」という博士の生前の言葉通り、1998年に *Dickens Lexicon* 作成の完成を目指してプロジェクトチームが結成された。メンバーは、山本忠雄博士の薫陶を受けた研究者に加え、その方々のもとで教育を受けた若い研究者を含む20名のチームである。最初の作業としてカードの枚数の確認、アルファベット順に並び替え、1枚1枚コンピュータへの入力など

の作業を行った。その作業を遂行する中で、コンピュータ技術の進歩、コンピュータ技術に精通したメンバー、言語文体研究の進歩・発展などを考慮して、単にコンピュータで作成した *Dickens Lexicon* ではなく、多機能搭載型の *Dickens Lexicon* を作成することを検討し、山本忠雄博士が考えていた *Dickens Lexicon* を中心に据えながらも時代に応じた *Dickens Lexicon* 作成を目指すことで、プロジェクトの質的発展と量的拡大を行うことにした。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、平成20年度から22年度まで採択された科学研究費補助金基盤研究(B)「多機能搭載型電子版ディケンズレキシコン作成とその活用研究」の発展的研究で、新たな知見と方法によって研究をさらに深化させ、完成させることにある。新たな試みとしては、2つある。1つは、研究グループの強化である。ディケンズの言語・文体研究者3名と人文学資料のデジタル・アーカイブ構築およびWebアプリケーションの開発に豊富な経験を有する人文情報学研究者1名を研究分担者に加えて研究グループを強固にした。もう1つは、これまでの3年間、国内外の学会で本研究を部分的に発表してきたが、予想以上に反響が大きく、意見交換の中でさらに様々な機能を追加・拡大して、世界の多くの英語・英文学研究者に利便性の高い、世界初の高機能型レキシコンを提供することを考慮に入れて作成する点である。

### 3. 研究の方法

インターネット上で公開するために、Dickensの作品の約4万枚のカードに含まれる内容、つまり見出し語、品詞、定義、作品名、章、引用、OEDの引用有無、コメントを完成する。また、Dickensの作品以外の手紙や講演からのカード及び18世紀と19世

紀の作品の電子化を終了させる。インターネット上での公開を視野に入れ、Webアプリケーション開発の専門家によるデモを作成し、国内外の学会で発表し、問題点や他の機能の可能性を探る。プロジェクトを完成させるために、研究代表者、分担者、協力者の打ち合わせや発表会だけでなく、情報を共有するために全員で作業を行う時間を出来るだけ多く確保する。

#### 4. 研究成果

今年度も国内外で本研究の成果を発表している。28年度において本研究と関連したテーマで海外において研究発表した研究分担者は、田畑智司、船田佐央子、西尾美由紀、永崎研宣である。また、出版物として直接本研究に言及した業績として、本科研代表者堀が編集した、英語コーパス研究シリーズの第5巻『コーパスと英語文体』（ひつじ書房，2016年）を刊行し、本科研の分担者の1人である西尾（島）美由紀が第4章

「The Dickens Lexicon Digitalとその活用研究」において、これまでの本研究の過程とその活用研究のモデルとして研究事例を報告している。インターネット上で公開をするために、Dickensの作品の約4万枚のカードに含まれる内容、つまり見出し語、品詞、定義、作品名、章、引用、OEDの引用有無、コメントを完成する。また、Dickensの作品以外の手紙や講演のカード及び18世紀と19世紀の作品の電子化を終了させる。インターネット上での公開を視野に入れ、Webアプリケーション開発の専門家によるデモを作成し、国内外の学会で発表し、問題点や他の機能の可能性を探る。プロジェクトを完成させるために、研究代表者、分担者、協力者の打ち合わせや発表会だけでなく、情報を共有するために全員で作業を行う時間を出来るだけ多く確保する。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計13件)

1 堀正広、教と養、読書と不立文字、日本国際教養学会論集、査読有り、3号、2017、90-93

DOI:[http://jaila.org/journal/articles/vol003\\_2017j003\\_2017\\_089\\_sa.pdf](http://jaila.org/journal/articles/vol003_2017j003_2017_089_sa.pdf)

2 田畑智司、修辭的特徴のマイニング：Dickensと18-19世紀英国小説の文体、英語コーパス研究、24号、2017、101-122

3 田畑智司、FLOBコーパスの意味構造：確率論的トピックモデルによる言語使用域の特徴付け、統計数理研究所共同研究リポート『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ』、386巻、2017、1-17

4 堀正広、小説における副詞研究の多様性、英語語法文法研究、査読有り、23号、2016、53-68

5 Saoko Funada, A Stylistic Approach to Animal Metaphors in Charles Dickens's Novels: With Special Reference to the First-Person Narrative Perspectives, Online Proceedings of the Annual Conference of the Poetics and Linguistics Association, 2016, 1-24, PALA (Poetics and Linguistics Association), Published Online: [http://www.pala.ac.uk/uploads/2/5/1/0/25105678/funada\\_saoko.pdf](http://www.pala.ac.uk/uploads/2/5/1/0/25105678/funada_saoko.pdf)

6 船田佐央子 他5名、別府大学教養英語共通テストの解答傾向分析、別府大学紀要、57号、2016、87-105

7 地村彰之 他1名、ジェフリー・チャーサー作『善女列伝』(1)、岡山理科大学紀要、52号B、2016、1-20

8 堀正広、歴史社会言語学入門の書評、英語教育、大修館、2015、92-92

9 堀正広、IdentityとCreativity、日本英文学会第87回Proceeding、査読有り、2015、88-89

10 堀正広、ディケンズの言語・文体における創造性、ディケンズフェロウシップ年報、査読有り、38号、2015、72-73

11 三宅真紀、ネットワークによるディケンズ・レキシコンの視覚化—辺媒介性に基づくグラフクラスリング手法の適用—、言語文化研究プロジェクト：電子化言語資料分析研究 2014-2015、大阪大学大学院言語文化研究科、2015、29-40

12 永崎研宣、仏教文献のための構造的なデジタルテキストの記述と活用、印度学仏教学研究、査読有り、63巻2号、2015、1088-1094

13 Masahiro Hori, Osamu Imahayashi, Tomoji Tabata, Keisuke Koguchi, Miyuki Nishio, Kiyonori Nagasaki, The Development of The Dickens Lexicon Digital and its Practical Use for the Study of Late Modern English. *Digital Humanities 2014 Book of Conference Abstracts*.

〔学会発表〕(計 32 件)

1 田畑智司、The Semantic Universe of Classic Fiction、言語研究と統計 2017、2017 年 3 月 27 日、統計数理研究所

2 高口圭輔、Dickens の身体表現:hand に焦点を当てて、シンポジウム「英米文学における body language:歴史的文体論の視点から」、英語史研究会第 27 回大会、2017 年 3 月 25 日、福岡女子大学

3 Saoko Funada, The Distant Correspondence Project: How Can Japanese University Students Learn to Communicate Better in English? The 2nd International Conference: From Theory to Practice in Language for Specific Purposes 2017, February. 18, 2017, University of Zagreb, Croatia

4 堀正広、アカデミック・ライティングと科学論文の英語の文体、技術英語表現法実践報告会、2017 年 1 月 23 日、東京理科大学

5 Tomoji Tabata, Collaborative Texts under a Stylometric Microscope: Investigating Cases of Mixed Authorship、大阪大学豊中地区 研究交流会「文×理『知』の融合」、2016 年 12 月 20 日、Osaka University

6 Tomoji Tabata, Sequencing a Literary Genome of Classic Fiction: When the Humanities Meets Digital、大阪大学豊中地区 研究交流会「文×理『知』の融合」、2016 年 12 月 20 日、Osaka University

7 地村彰之(司会・総論)、チョーサーと多文化共生、日本中世英語英文学会第 32 回全国大会企画シンポジウム、2016 年 12 月 11 日、関西大学

8 田畑智司、デジタルが拡張するテキスト分析と文体論:Stylometry の現在、英学シンポジウム 文体論で極める文学とコミュニケーション、2016 年 11 月 19 日、兵庫県立大学・姫路キャンパス

9 高口圭輔、身体表現から見た Dickens の言語と文体、日本英文学会中国四国支部第 69 回大会、2016 年 10 月 29 日、愛媛大学

10 Saoko Funada, Dickens's Personification and Style: With a Special Focus on the First-Person Narrative Perspectives、Metaphor Festival Amsterdam 2016、2016 年 9 月 1 日、University of Amsterdam, the Netherlands

11 Saoko Funada, A Stylistic Approach to Dickens's Metaphorical Expressions:With a Special Focus on 'How are Humans Treated as Animals?', Advances in Metaphor Studies Conference, May 21, 2016, University of Genoa, Italy

12 田畑智司、修辞項目のアノテーションを活用したテキスト分析、英語コーパス学会シンポジウム「アノテーション(タグ付け)の功績と課題」、2016 年 10 月 01 日~10 月 02 日、成城大学

13 地村彰之(司会・総論)、Chaucer とヨーロッパ大陸の影響、第 88 回日本英文学会シンポジウム、2016 年 05 月 28 日、京都大学

14 堀正広、シンポジウム「英語教育にコーパスを活かす」、JACET(大学英語教育学会)、2016 年 9 月 2 日、北星学園大学。

15 Tomoji Tabata, Rolling stylometry and Dickens's collaboration with Collins, Poetics and Linguistics Association 2016, July 27, Cagliari, Italy

16 Tomoji Tabata, Experimental Stylistics: A Meta-analysis to Evaluate Rolling Stylometry, Digital Humanities 2016 Pre-Conference Workshop "Digital Literary Stylistics," July 12, 2016, Krakow, Poland

17 Akiyuki Jimura 他 1 名、Roundtable: Digital Approaches to Middle English Editing, The 20th Biennial Congress of the New Chaucer Society, July 12, 2016, Queen Mary University of London, UK

18 堀正広、シンポジウム「文学の言語研究への貢献:辞書から CD-ROM, Online,そして Dickens Lexicon Digital」、2016 年 6 月 25 日、安田女子大学

19 地村彰之、イディオムと語義の変遷、近代英語協会第 33 回大会講演(招待講演)、2016 年 6 月 25 日、安田女子大学

20 堀正広、シンポジウム「理系の教養とは」、2016 年 3 月 13 日、日本国際教養学会、東京理科大学

21 堀正広、シンポジウム「英語表現および英作文教育」、立命館大学大学院言語教育情報研究科・国際言語文化研究所、2016 年 2 月 6 日、立命館大学

22 堀正広、ことばとアイデンティティ、招待講演、立命館大学大学院言語教育情報研究科講演会、2016 年 2 月 5 日、立命館大学

23 堀正広、シンポジウム「副詞を巡る諸問題:語法文法、辞書記述、文体」、2015 年 10 月 24 日、龍谷大学

24 今林修、堀正広、高口圭輔、田畑智司、シンポジウム「ディケンズの言語と文体」、ディケンズフェローシップ全国大会、2015 年 6 月 13 日、関西外国語大学

25 堀正広、シンポジウム「文体論に基づく英語教育再興」、日本英文学会、2015 年 5 月 24 日

26 堀正広、AntConc を使った英作文の自己診断と自己添削法の開発、JACET (大学英語教育学会)、2015 年 8 月 30 日、鹿児島大学

27 堀正広、シンポジウム「文体論に基づく英語教育再興」、日本英文学会、2015 年 5 月 24 日、立正大学

28 堀正広、今林修、永崎研宣、パネルセッション「次世代ディケンズ・レキシコン・デジタルの開発とそれに基づく後期近代英語研究、英語コーパス学会、2014 年 10 月 4 日

29 Masahiro Hori, Osamu Imahayashi, Tomoji Tabata, Keisuke Koguchi, Miyuki Nishio, Kiyonori Nagasaki, The Development of The

Dickens Lexicon Digital and its Practical Use for the Study of Late Modern English, Digital Humanities, University of Lausanne, July 10, 2014, Switzerland

30 Tomoji Tabata, Masahiro Hori, Osamu Imahayashi, Miyuki Nishio, Kiyonori Nagasaki, The Dickens Lexicon Digital and the Study of Late Modern English, DADH 2014, December 2, 2014 National Taiwan University

31 Saoko Funada, Approach to Metaphorical and Metonymical Expressions in *The Old Curiosity Shop*. Stockholm Metaphor Festival 2014, August 2014, Stockholm University, Sweden

32 Kiyonori Nagasaki, A. Charles Muller, Toru Tomabechi, Masahiro Shimoda, Bridging the Local and the Global in DH: A Case Study in Japan, *Digital Humanities 2014*, July 2014, Lausanne Switzerland Saoko Funada, Humanisation and Dehumanisation: A Stylistic

〔図書〕(計8件)

1 豊田昌倫、堀正広、今林修(共編著)、研究社、英語のスタイル:教えるための文体論入門、2017、310

2 堀正広(編著)、地村彰之、田畑 智司、西尾美由紀 ひつじ書房、コーパスと英語文法、2016、220

3 堀正広・赤野一郎(監修)・投野由起夫(編集) コーパスと英語教育、ひつじ書房、2015、250

4 今林修、西尾美由紀、Saoko Funada、Language and Style in English Literature "The Reporting Clause in Dickens's Works"、溪水社、2016、250

5 堀正広・赤野一郎(監修)・深谷輝彦・滝沢直宏(編集)、コーパスと英語文法語法、ひつじ書房、2015、246

6 赤野一郎、堀正広、投野由起夫(編著)大修館書店、英語教師のためのコーパス活用ガイド、2014、242

7 Tomoji Tabata, Stylometry of Dickens's Language: An Experiment with Random Forests, in P. L. Arthur and K. Bode (eds.) *Advancing Digital Humanities: Research, Methods, Theories*, Palgrave Macmillan, 2015, 28-53

8 Saoko Funada, 'Metaphorical Expressions in *Little Dorrit*: Humanisation and Dehumanisation'. *Research Horizons*. Eds. Prof. Vibhuti Patel & Dr. Harshada Rathod. Mumbai: Maniben Nanavati Women's College, 2015, 116-128.

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:

種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1)研究代表者  
堀正広 (HORI, Masahiro)  
熊本学園大学・外国語学部・教授  
研究者番号: 20239778  
(2)研究分担者  
今林修 (IMAHAYASHI, Osamu)  
広島大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 90278987  
(3)研究分担者  
田畑 智司(TABATA, Tomoji)  
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授  
研究者番号: 10249873  
(4)研究分担者  
高口圭輔 (KOGUCHI, Keisuke)  
安田女子大学・文学部・教授  
研究者番号: 50195658  
(5)研究分担者  
研究分担者 島(西尾)美由紀 (SHIMA  
(NISHIO), Miyuki)  
近畿大学・工学部・准教授  
研究者番号: 50549524  
(6)研究分担者  
地村彰之 (JIMURA, Akiyuki)  
岡山理科大学大学・教育学部・教授  
研究者番号: 00131409  
(7)研究分担者  
永崎研宣 (NAGASAKI, Kiyonori)  
一般財団法人・人文情報学研究所・所長  
研究者番号: 30343429  
(8)研究分担者  
船田佐央子 (FUNADA, Saoko)  
別府大学・文学部・講師  
研究者番号: 40389391  
(9)三宅真紀 (MIYAKE, Maki)  
大阪大学・言語文化研究科・准教授  
研究者番号: 80448018

(3)連携研究者  
( )

研究者番号：

(4)研究協力者

池田裕子 ( IKEDA, Yuko )

熊本大学非常勤